

2023

8.26 土
12.24 日

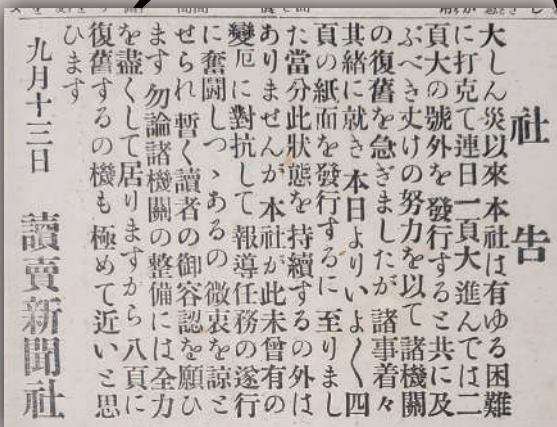
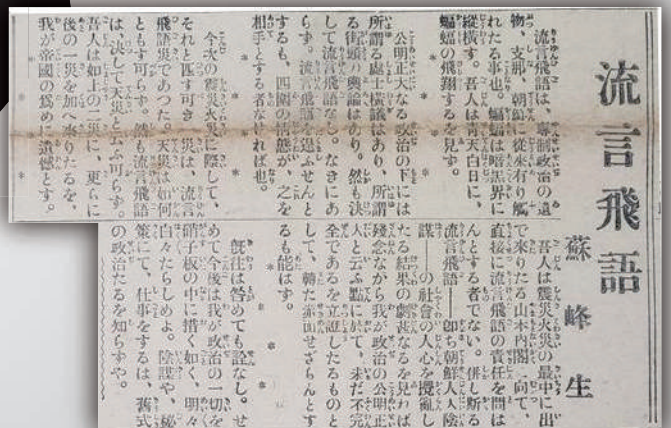
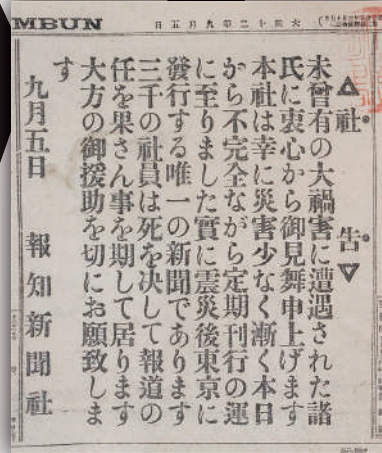
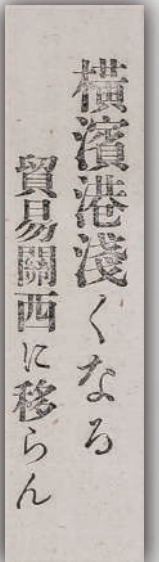
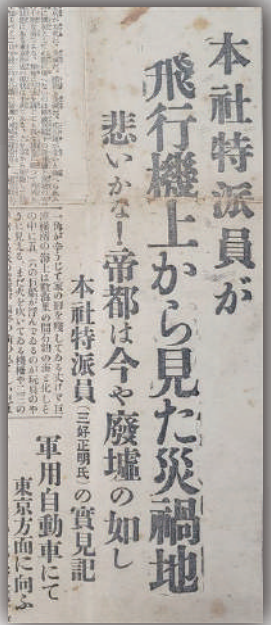
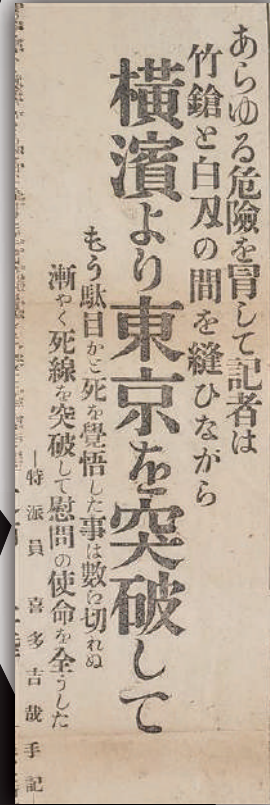
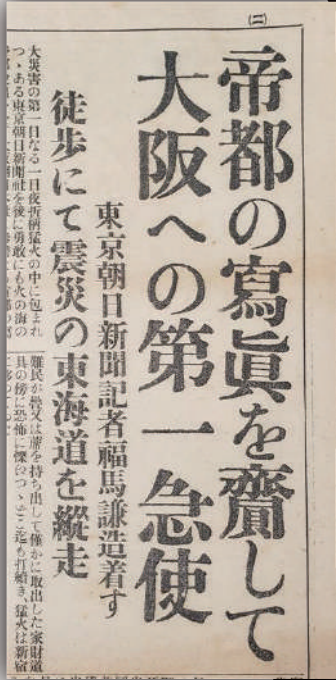
会場 ニュースパーク(日本新聞博物館) 2階企画展示室
開館時間 午前10時〜午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日(祝日・振替休日の場合)は次の平日)
主催 ニュースパーク(日本新聞博物館)
後援 神奈川県博物館協会／神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／川崎市教育委員会

入館料	
一般	400円
大学生	300円
高校生	200円
中学生以下	無料

企画展

そのとき新聞は、記者は、情報は、

関東大震災100年

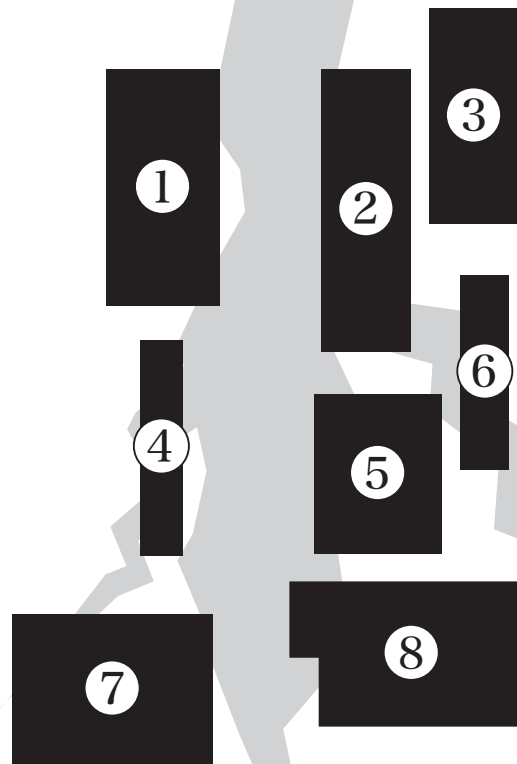


1923(大正12)年9月1日午前11時58分、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9の巨大地震が発生、関東地方を中心に激震が襲いました。死者・行方不明者は約10万5000人。そのうち約9万2000人は火災によるものでした。東京府、神奈川県を中心に住家の全半壊・焼失・流失・埋没の被害も甚大でした。

東京の新聞社も4社を除いて社屋が焼失しました。新聞発行が困難な状況に陥る中、なんとかしてでも情報を伝えようと、各社は足踏み式の印刷機などを使って号外を発行。通信が途絶え、交通事情も悪い中、大阪にも拠点を持つ新聞社は震災直後に東京から大阪へ向けて記者を送り出し、各地の新聞社は被災地に特派員を向かわせました。鉄橋が落ちた相模川を泳いで渡ったり、青年団に日本刀を突き付けられ誰何(すいか)されたりするなど、数々の苦難を経て目的地にたどりついた記者たちが目にした惨状は、号外や紙面で大きく伝えられました。

神奈川県は住家の全半壊が東京を上回り、生糸の輸出港だった横浜港も壊滅的な被害を受けました。根府川駅(小田原市)付近で発生した地滑りと土石流災害、鎌倉の沿岸部を襲った津波などによる被害も大きなものでした。横浜の新聞社も被災し新聞発行が困難になりました。

本展は、新聞社の当時の状況、記者が被災地で見たもの・経験したこと、横浜・神奈川がどのように伝えられたのかを、当時の紙面や写真で振り返ります。そこには、どんな状況でも人々に情報を届けようとする新聞社と記者の「本能」とも言える姿があります。このほか、災害時に広がる流言・デマも紹介し、不確かな情報にどう対処するかを考える機会にもします。関東大震災前後の震災、新聞社の防災・減災の取り組みも取り上げます。



表面見出し・社告の出典

- ① 大阪朝日新聞
1923年9月4日 第三号外
- ② 大阪都新聞
1923年9月6日 号外
- ③ 大阪毎日新聞
1923年9月4日 夕刊(9月5日付)
- ④ 京都日出新聞
1923年9月2日 夕刊(9月3日付)
- ⑤ 報知新聞
1923年9月5日
- ⑥ 国民新聞
1923年9月9日 号外
- ⑦ 読売新聞
1923年9月13日
- ⑧ 国民新聞
1923年9月29日
※ 創刊者・徳富蘇峰による「流言飛語」と題した論考

同時
開催

時代の言葉。
コピーライターがつくった新聞広告名作120選。

8.26 sat ▶ 12.24 sun
2階企画展示室

N ニュースパーク
日本新聞博物館

〒231-8311
神奈川県横浜市中区日本大通11
横浜情報文化センター

TEL 045-661-2040
FAX 045-661-2029

<https://newspark.jp>



【交通アクセス】

- みなとみらい線
「日本大通り駅」3番出口(情文センター口)直結
- JR根岸線・横浜市営地下鉄
「関内駅」から徒歩10分
- 横浜市営バス
「日本大通り駅県庁前」から徒歩1分
- 車で首都高速「横浜公園出口」から約3分

神奈川震災100年

— 神奈川県博物館協会 神奈川震災100年プロジェクト —